

第 67 回関西油化学講習会（油技術講座）のご案内

主題：化粧品未来を拓く界面・水・材料科学

近年、化粧品開発は、界面科学、水科学、材料科学の融合により大きく進展し、高機能で安全かつ使用感に優れた製剤・材料設計が可能となっています。本講習会では、化粧品業界を代表する企業ならびに大学の第一線で活躍されている方々を講師に迎え、分子・界面レベルの基礎科学から製剤設計、材料開発、実用化技術まで、化粧品の未来を拓く最新の研究・技術をご紹介します。化粧品・油化学分野をはじめ幅広い分野の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

主 催 (公社) 日本油化学会関西支部

日 時 2026 年 12 月 11 日 (金) 9 時 30 分～17 時 25 分

会 場 大阪産業技術研究所 森之宮センター (〒536-8553 大阪市城東区森之宮 1-6-50)

J R 大阪環状線・地下鉄中央線または長堀鶴見緑地線「森ノ宮」駅下車、4 番出口東へ 300m の都市基盤整備公団と赤十字血液センターの間の角を北へ 300m、森之宮小学校北隣。徒歩約 10 分。

参加費 (テキスト代を含みます。)

本会法人会員・協賛団体会員会社の勤務者 15,000 円

本会正会員 12,000 円

大学・官公庁所属の本会正会員 10,000 円

学生 5,000 円

会員外 20,000 円

交流会 2026 年 12 月 11 日 (金) 18 時～20 時

「鉄板グリルパブ BOSKE (ボスケ)」森ノ宮駅前

参加費：3,500 円 (学生 2,000 円)

参加を希望される方は講習会申込時にお申込みください。交流会参加費は当日現金で徴収させていただきます。交流会参加費を支払われた皆様には、所属機関で仕入税額控除が可能な「預り金精算書」を発行いたします。

申込先 〒535-8585 大阪市旭区大宮 5-16-1 大阪工業大学工学部応用化学科 超分子研究室内

(公社) 日本油化学会関西支部 関西油化学講習会担当 村岡 雅弘

Tel&Fax: 06-6954-4273 (ダイヤルイン)、E-mail : masahiro.muraoka@oit.ac.jp

申込方法 氏名、会員番号 (正会員の場合)、勤務先、連絡先所在地、電話番号、メールアドレスを明記の上、村岡までメール (masahiro.muraoka@oit.ac.jp) でお申し込み下さい。第 67 回関西油化学講習会の参加申込用 Google フォーム (<https://forms.gle/ncqeqnoFruVDsXLv5>) からの申し込みも受付けています。参加費は締切日までに銀行振込で前納して下さい。なお、納入された参加費は返金いたしかねますので、予めご了承下さい。

銀行振込先：池田泉州銀行大宮町支店・普通預金口座 78953

公益社団法人日本油化学会関西支部事務局

申込締切 2026 年 11 月 13 日 (金) [定員 70 名：先着順]

プログラム：

開会の辞 (9:30-9:35)

1. 「ヒアルロン酸の分子量に着目した機能性研究と製品応用」

ロート製薬(株) 外用薬・ヘアケア製品開発部 佐藤 康成 氏 (9:35-10:35)

生体内に存在するヒアルロン酸は多様な分子量で組織内に分布し、細胞の恒常性維持に寄与しています。特に低分子ヒアルロン酸は、紫外線ダメージ後の過度な炎症抑制作用や、皮膚の慢性炎症に関与する炎症型マクロファージへの変換抑制作用が明らかとなっています。ヘアケア領域に於いても、ヒアルロン酸の水分保持機能を活かし、毛髪構造に着目したうねり制御研究を進めています。本講演ではヒアルロン酸の生理活性や物性を活かした製品応用について、基礎研究から応用研究の事例を紹介します。

2. 「化粧品油剤の溶解・浸透促進効果とハンセン溶解度パラメータ(HSP)の活用」

日本精化(株) 化粧品研究開発第1部 山川 智史 氏 (10:45-11:45)

化粧品において油剤は、エモリエント効果、使用感の向上、有効成分や難溶性成分の溶解・浸透促進、顔料分散や乳化系での処方安定化など多様な役割を担っている。油剤の機能のうち、溶解性の向上や浸透促進の効果は、化粧品としての機能を最大限に発揮するための重要な要素である。本講演では、高溶解性や浸透促進効果を持つ油剤の開発事例と、溶解性/浸透性の予測へのハンセン溶解度パラメータ(HSP)の活用について紹介する。

3. 「界面活性剤の自己組織化を活用した水の機能設計
～スポンジ相研究の最近の進展と化粧品への応用～」

武庫川女子大学 薬学部 渡辺 啓 氏 (12:50-13:50)

界面活性剤は自己組織化により多様な会合体を形成し、水系の構造や機能を大きく変化させる。本講演では、スポンジ相を中心とした自己組織体の形成機構と界面物性について最新の研究成果を紹介するとともに、超低界面張力や優れた浸透・洗浄特性を活用した化粧品への応用について解説する。さらに、相平衡に基づく自己組織化制御による新たな処方設計の可能性について議論する。

4. 「角層バリアを守る肌にやさしい洗浄基剤と処方設計」

花王(株) 研究開発部門 バイオ・マテリアルサイエンス研究所 春日 梓 氏 (14:00-15:00)

皮膚の最表面にある角層は洗浄の影響を最も受けやすいと考えられ、この角層はケラチン繊維タンパク質を豊富に含む角層細胞と、その間を埋める細胞間脂質から構成される。本講演では、タンパク質と細胞間脂質の両観点から角層全体にやさしい洗浄基剤について考察し、角層全体へのやさしさと皮脂洗浄力を両立する洗浄基剤を紹介する。さらに、洗浄基剤の皮膚吸着制御を目指した技術開発について紹介する。

5. 「電子状態から探る溶液・高分子界面の水素結合構造と材料機能」

東京大学 物性研究所 原田 慈久 氏 (15:10-16:10)

水は多くのソフトマテリアルにおいて単なる溶媒ではなく、材料機能を左右する重要な構成要素である。本講演では、軟 X 線吸収・発光分光を用いて水分子の電子状態を観測し、塩水溶液、水-エタノール混合系、高分子界面における水素結合構造の変化について紹介する。さらに、ナノ空間に閉じ込められた水の特異な電子状態にも触れ、水の局所構造と材料機能との関わりについて議論する。

6. 「ピッカリングエマルジョンを化粧品価値へ

～シリカ粒子とセルロースファイバーによる、心地よく落ちにくい化粧膜の設計～」

ポーラ化成工業(株) テクニカルディベロップメントセンター 中谷 明弘 氏 (16:20-17:20)

化粧品の研究開発における乳化技術は、油と水を安定に混ぜるだけでなく、肌上に残る膜と機能を設計する技術でもある。本講演では、シリカ粒子を用い、海水との接触による凝集を膜強化に生かした日焼け止めと、セルロースファイバーの油保持・均一膜形成、脂肪酸による密着性向上により、心地よさと落ちにくさを両立した日焼け止めを紹介する。二つの研究事例を通じ、固体乳化技術を化粧品価値へと展開する処方設計の考え方を示す。

閉会の辞 (17:20-17:25)